

令和4年度奈良県コミュニティ・スクール連絡会〔市町村立学校(園)〕 実施報告

《日 時》 令和4年8月29日(月) 13:30~15:55

《方 法》 県立教育研究所での参集による研修、または Zoom によるオンライン研修のいずれかが参加者が選択して実施

《参 加》 「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)」を導入している市町村立学校(園)の管理職、地域連携担当教職員 計 52名

《内 容》 13:30~13:40 開会

13:40~14:30 説明「CSポートフォリオについて」

文部科学省 総合教育政策局 地域学習推進課 地域学校協働活動推進室 地域学校協働推進係

宮川 拓史 氏

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 政策研究事業本部 公共経営・地域政策部 研究員

永野 恵 氏

14:45~15:25 情報交換・意見交流

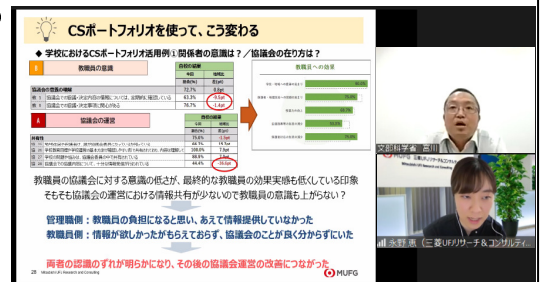
15:25~15:45 全体共有

15:45~15:55 閉会

◆ 説明概要

「CSポートフォリオ」について、その作成趣旨や実施により明確になる事柄や結果の効果的な活用方法などについて、御説明いただいた。

- ・学校運営協議会からの「適切に運営できているのか」「学校運営に活かされるためには、何を改善すればいいのか」、学校からの「CSを導入したが、教育活動にどのような効果があるのか」「教職員の理解が得られにくい、課題や改善点はどこにあるのか」、地域からの「ずっと協働活動に関わっているが、このままの関わり方でいいのか」「学校を核とした地域づくりって、どんな効果が期待できるのか」などの声に応えるために作成したのがCSポートフォリオである。
- ・CSに取り組んでいる学校のCSの運営状況や生み出す成果を可視化し、今後の学校運営や協働活動の改善に向けた次なる一手の検討につなげていくための自己診断ツールである。
- ・CSでめざすところは、子どもたちの資質・能力の伸張だけではなく、教職員の働き方改革や地域住民や保護者への影響(学校を核とした地域づくり)も含まれている。CSに期待される効果や成果は大きい。
- ・CSの目標達成状況を測るためには、子どもたちの資質・能力等の測定に加え、その要因となる「学校運営協議会の運営状態」や「関係者(学校運営協議会委員や地域住民や保護者など)の意識・活動」も定量的に可視化することで、組織的な活動の改善が「客観的数値」に基づいて可能になる。
- ・3つの要素(CSの効果、関係者の意識・活動、協議会運営の状態)に設定した指標について、CS関係者(学校運営協議会委員、教職員、地域住民、保護者、児童・生徒)に対するアンケート調査を行う。そのデータを流し込むことで、CSポートフォリオが出来上がる。
- ・CSポートフォリオでは、肯定的な回答をした割合が、前回、今回、地域平均の3種類表示され、経年比較や地域との比較も可能である。
- ・CSポートフォリオを活用し、データを紐解くことで課題が明らかになり、学校運営協議会の運営の改善やCSの目標の再確認、協働活動を実施する方法の見直しにつなげてほしい。
- ・CSポートフォリオを所管する学校全てに活用した場合、調査対象校全体として良好な状態の項目、改善や支援が必要な項目、個別の学校への特徴的な支援が有効である項目などの可視化が可能である。また、CS運営の成果が期待どおり出ている学校(好事例)の発見にもつながる。
- ・多くの指標があるため、注目したい指標を選択することが重要である。
- ・CSポートフォリオを使用して次なる一手に気づくためには、データ(客観的情報)を基にして対話(主観的解釈)をすることが重要である。



◆ 情報交換・意見交流と全体共有

11のグループに分かれ、「CSとしての自校の強み・弱みと学校運営協議会の効果的な運営」について、事前に取り組んだCSチェックシートを基に、グループで情報交換・意見交流を行った。その後、代表者がグループで出た意見を発表する形で全体共有を行った。

《参加者の感想》

- ・学校運営協議会の活動の現状や推進に向けての課題や方向性について共有できてよかった。
- ・CSの効果・進捗の見える化ができれば指標として活用できるので、とても良いと思った。
- ・各校の状態を知ること、学校運営協議会の運営のヒントを頂いた。今はまだ全然進んでいない状況であるが、本校でできることを考えていきたい。
- ・強みや課題とともに現状を知ること、自校の位置も理解できるかと思いました。

○この連絡会は、今後の「コミュニティ・スクールの推進」に活用できるものであった。

